
【掌篇】唇ピッキング

高島津諦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【掌篇】唇ピッキング

【コード】

N0207V

【作者名】

高島津諦

【あらすじ】

私と、恋人なはずの奇妙な彼女の、ごく短いお話。いちやついてるだけでも言う。twitterで書いた物を編集してpixivにあげた物、の転載です。

彼女が私に許すのは、唇だけだ。それも二人きりの時に限られる。キスではない。私が彼女の柔らかな桜色に触れて良いのは、指のみである。

十本の（下半身にはもう十本あるが、それが許されるか訊く度胸はなかった）指のどれをどのように触れさせても良いが、そこまでそれ以外は、意図的には手も握れない。無理に触れると、それはそれは恐ろしい罰が待っている。

唇と口内にも、彼女が決めた明確な線引きがある。彼女の白く硬い歯に決して触れてはいけない。それは口内を侵したことになり、私はとてもとても恐ろしい罰を受ける。

この定義は実際の所欠陥品で、皆さんも自分で試せば分かるが、唇を上下に引っ張ったり、或いは無理矢理笑わせるように横に引いて生じた隙間に指を突っ込めば、口内としか考えられない濡れた場所を探ることができるのだ。おお、禁断の地への冒険よ！

私が自分に触れてそれを発見した時は大いに興奮し、翌日、姑息にルールの穴をついたことを彼女が怒り出さないか、指が滑って歯に触れないかビクビクしながら可憐な唇を变形させた。果たして、彼女は唇の歪み以外にはほとんど表情も変えず、私の蹂躪を受け入れた。彼女のぬめりと熱といったら！ただしこれにはこれで問題があり、唇を引き伸ばされている彼女の顔は、歯科医の治療めいて些か類稀なる端正さを失うのだった。何かの間違いで歯に触れる恐れもあり、私は以降このチートを、まあ、それほどは行なっていない。

こんな彼女を奇妙だとは思う。でも、私は彼女がとても好きだ。この先のことに想いを馳せたりもする。流石に、その内手くらしいは握らせてくれると思う。それ以上のことは、ちょっと分からない。私はどこまで、この風変わりな愛しい人に近付けているのだろうか？唇に触れさせてもキスを許さないのは、心を委ねていませんよという当てつけなのかと落ち込んだりもする。でも、良いのだ。彼女が手帳に私と撮った写真だけを貼ってくれていたりするものだから、それだけで私はやっていける。

それに、と私は考える。私の技が磨かれたのか、最近彼女に触れていると、頬が染まり眼が潤んでいる、気がする。彼女も肉体を持ち神経の通った人間である。もつと精進すれば唇から彼女の中に侵入できるかもしれないと、私は今日も彼女の唇を奪うのである。

(後書き)

お読みいただきありがとうございます。新種の萌えを作りたくて、唇だけスゲーいじられる美少女、というのを考えてみましたがよく分からなくなりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0207v/>

【掌篇】唇ピッキング

2011年11月17日05時50分発行